国語の授業アイデア・小学校

読む・書く・話すをつなぐ「主張と根拠」

同じ主張を3つの形で読み比べると、領域をこえて使える「骨組み」が見えてきます。

小5　1単位時間（45分）　読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと

次期学習指導要領とのつながり



話や文章の機能（仮称）　考えや主張の理由付けと吟味（仮称）　運用しながら深める知識

審議まとめは、話す・聞く、書く、読むの学習が別々のものと意識され、関連付けて深めにくいという課題をあげています（P129）。そのうえで、話や文章が社会で果たす主な役割を「話や文章の機能」（仮称）として整理し、たとえば「論説を読む」「意見文を書く」「提案のスピーチをする」を「考えや主張の理由付けと吟味」（仮称）でつなぐ指導計画を立てやすくする方向を示しています（P131・P134）。主張と根拠との関係など、すでに学んだ知識を異なる領域で繰り返し使うことで理解が

深まるともしています（P139）。この授業は、同じ主張を「意見文」「スピーチ原稿」「ポスター」の3つの形で比べ、形はちがっても主張・理由・根拠という同じ骨組みがあることに子供が自分で気付く時間です。審議まとめが示す方向性をふまえると、このあとの「書く」「話す」単元の入り口として使えます。 P129 P131 P134 P139

ねらい

主張と理由・根拠の関係に着目して3種類の文章を読み比べ、形がちがっても「考えを理由や事実で支えて、相手の納得を促す」という同じ働きをしていることを、叙述をもとに説明できる。

準備するもの

- 先生が書いた、同じ主張（例：「昼休みに読み聞かせタイムをつくろう」）の3種類の文章：意見文（300字ほど）、全校集会での提案スピーチ原稿、掲示用ポスター
- スピーチ原稿を先生が読み上げて録音した音声
- 3色の色鉛筆（主張＝赤、理由＝青、根拠となる事実＝緑）
- 比べる表のワークシート（行：主張・理由・根拠となる事実・相手への呼びかけ／列：意見文・スピーチ・ポスター）
- 付箋

手順

① **先生がポスターを見せ、「このポスターは、みんなに何をしてほしいと言っているかな」と問います。続けて「同じことを、意見文とスピーチでも伝えてみたよ」と3つを配り、めあて「形のちがう3つの文章を比べて、共通する『しかけ』を見つけよう」を示します。** 5分

② 一人で、3つの文章に色を付けます（主張＝赤、理由＝青、根拠となる事実＝緑）。スピーチは録音を聞いてから原稿に色を付けます。 10分

③ ペアで表に整理し、「同じところ」「ちがうところ」を話し合います。同じ：主張は1つで、理由と事実で支えている。ちがう：ポスターは根拠が短い、スピーチは主張を最初と最後に2回言う、意見文には反対の考えへの答えがある、など。 10分

④ 全体で共有します。先生は3つを横に並べて板書し、子供の言葉で「主張を理由や事実で支えて、相手に『なるほど』と思ってもらう文章」とまとめます。こういう働きをする文章の仲間が、これからの「読む」「書く」「話す」単元でも出てくることを予告します（仮称の用語を子供に覚えさせる必要はありません）。 10分

⑤ 自分ならポスターにどんな根拠を1つ足すかを考え、付箋に「足す事実」と「それがなぜ主張を支えるか」を1文ずつ書いて、表のポスターの列に貼ります。 7分

⑥ 振り返りとして、「次に意見文を書くとき（スピーチをするとき）に使えそうなこと」を一言書きます。 3分

評価（見取り）のポイント

【思考・判断・表現（読むこと）】色分けと表から、主張と理由・根拠の関係を叙述をもとに捉えているかを見取ります。付箋では、足した事実が主張を支える理由を説明できているかを見ます。この時間は単元の導入なので形成的評価にとどめ、つまずいている子供には「この事実があると、なぜ『やろう』と思えるの？」と問い返します。まとめの評価は、後の意見文やスピーチの単元で行います。

うまくいくコツ・アレンジ

- 3つの文章は、主張と根拠をそろえて形だけを変えて作るのがコツです。中身まで変えると、比べる視点がぼやけます。
- ポスターの根拠は、わざと短く弱くしておく（数字だけ、出どころなし）と、「根拠を足す」活動が自然に生まれます。
- このあとの「書くこと」「話すこと」の単元の最初に、この時間の板書の写真を見せて思い出させると、領域をこえて知識を使う流れができます。

アレンジ

- 小3・4では、説明する文章とおすすめを伝えるスピーチの2種類にしぼり、「理由」と「例」の2色で色分けします。
- 中学校では、新聞の投書ふうの文章と社説ふうの文章（どちらも先生が作成）を比べ、根拠の確かさや反対の考えへの答え方まで吟味させます。

ほかのアイデア

※ 次期学習指導要領は告示前です。審議まとめ（2026年10月5日）の方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルのアイデアです。